

地震一口メモ No. 193

過去の教訓から学び、将来に備える

大阪府にある対照的な2つの石碑

地震や津波の恐ろしさは皆さん既に認識されていると思います。また、地震が発生した時にどう行動すべきかについても学ばれていると思います。しかし、昔は地震発生時の行動について十分に認識されておらず、多くの犠牲が出てしまうこともありました。今回は、大阪府にある「大地震両川口津浪記石碑」と「擁護靈（ようごじ）」という石碑に記されている教訓をご紹介します。

大地震両川口津浪記石碑は安政南海地震の翌年の1855年に建てられたものです。この石碑には1854年に発生した安政東海地震、安政南海地震と、その津波によって多くの人が犠牲になったことが書かれています。当時、地震が発生し大きな揺れを感じた後、多くの人が水の上なら安心だと考えて小舟に避難しました。しかし、大勢の人が乗り込んだ多数の船が津波により押し流されて転覆してしまっただけでなく、148年前の宝永地震でも多くの人が小舟に避難して津波で亡くなったが、その教訓を生かせず、同じように多くの犠牲を出してしまった悔しさが続きます。そして、同じようなことが二度と起こらないように教訓とともに、この教訓を伝えてほしいということが書かれています。

一方で擁護靈には対照的な内容が書かれています。こちらには宝永地震の時に多くの人が船で避難し津波で亡くなったことを伝え聞いていた住民は、みな神社の庭に集まって避難したため、死者もけが人も出さなかったということが記されています。

2つの石碑から災害の教訓を伝承することの重要性が改めてわかると思います。近年でも日本は地震、津波により甚大な被害を受けました。日本ではいつどこで地震が起こるかわかりません。地震、津波を他人事とはせず、自ら過去の教訓から学び、地震が発生してしまったらどのように行動すべきか色々な状況下を想定して考えておくことがとても大切です。



大地震両川口津浪記石碑
(大阪市浪速区の大正橋近く)



擁護靈（ようごじ）
(堺市大浜公園の蘇鉄山)

※画像は津波・高潮ステーション facebook (<https://www.facebook.com/tsunami.osaka.jp>) より

Osaka Metro 阿波座駅近くにある、津波・高潮ステーションの展示棟では高潮、東南海・南海地震や津波についての知識を体感しながら楽しく学ぶことができます。上の2つの石碑の展示もあります。ぜひ行って災害への備えを確認してみたいはいかがでしょうか。